

# 宮崎光生

MIYAZAKI MITSUO

株式会社ダイナミックデザイン 代表取締役

1952年高知県生まれ。1975年住友建設入社。免震・制震構造の研究と設計に従事し、1994年に株式会社ダイナミックデザイン設立。高粘性流体充填の「粘性制震壁」の発明、日本初（世界第2号）のLRB免震建物、世界初の中間階免震建物・本格的制震構造ビル等の設計等の実績を誇る。

# CHALLENGER

## The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする  
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

## 「真の安全」を追求する、 日本の免震技術の第一人者。

地震大国の日本では、人の命を守る「揺れに強い建物」が追求されてきた。株式会社ダイナミックデザイン代表取締役の宮崎光生氏は、40年に渡り日本の免震を見てきた人物。「器としての建物、中身、機能、資産価値など、すべてを無傷で守るには免震しかない」と明言する。

1995年の阪神・淡路大震災を機に免震構造が普及し始めたのは、それ以前の10年間にわたる取り組みの賜物だという。免震構造では、地震の揺れを伝わりにくくするために、建物と地盤を切り離し、そこに設けた免震装置が大きな揺れを受け流して、建物内部のダメージや骨組の損傷を防ぐ。壁や柱を強くする「耐震」や、ダンパーなどで地震の揺れを吸収する「制震」と比べると、建物の揺れや内部被害が少ないのが特徴だが、コストの安さからいまだに多くの建物が耐震構造を採用している。

**免震**・制震マンション建設の中心の担い手は、資金力や技術力を有する大手ゼネコンであり、同社のように免震構造を専門とする設計事務所は極めて少ない。宮崎氏は免震一筋40年。1980年代から研究者、技術開発者、設計者として、評論家ではなく常に日本の免震の実務家、実践者の立場で活動してきた。

「建築基準法が改正された2000年以降、日本の免震技術は発展してきたと受け止めていますが、価格競争が技術の追求を妨げているように思えます」と危惧する宮崎氏が現在もっとも力を注ぐのが、自社開発の免震装置「回転機構付きすべり支承BSLシリーズ」の普及と新製品「WSL」の開発。高性能かつコストダウンを実現し、自社の命運をかけて挑む。WSLは特許取得の準備中だ。

**宮崎**氏の累計特許数は96件に及ぶ。第1号は住友建設時代に取得した制震壁の特許で、その技術は日本一の超高層ビル「麻布台ヒルズ森JPタワー」でも活用された。「発明・特許は数ではなく、社会に活用されて初めて意味がある」と語る宮崎氏は、まだまだ意気軒昂だ。

「体力的な問題で、部下に任せる仕事が増えましたが、課題を見つければ、新たな道を開くことでは若い人にも負けません。葛飾北斎を目標にして、70代こそクリエイティブに生きたい。新しい途や技術への挑戦は、私の元気の源であり喜びです」。

現状では解決できない課題に  
応える新しい技術を生み出すため、日本の免震の歴史と共に歩んできた設計者としての誇りを胸に、これからも走り続ける。